

日本河川・流域再生ネットワーク <http://www.a-rr.net/jp/>  <https://www.facebook.com/JapanRRN>

「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク（ARRN）の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。（Since 2006）

目次	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ	1
➤ JRRN 会員寄稿記事	3
➤ 「リバフロサポートセンター」からのお知らせ	5
➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ	6

JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

小さな自然再生普及促進プロジェクトー 今後開催予定の「小さな自然再生」現地研修会のご案内

先月に開催しました第 15 回「小さな自然再生」現地研修会 in 徳島県神山町・鮎喰川の概要報告は次ページをご覧ください。続いての開催となります第 16 回及び第 17 回の開催予定日が定まりましたので皆様にご案内します。

各プログラムの詳細が決まりましたら、JRRN ウェブサイトや facebook 等を通じて改めてご案内させていただきます。
皆様のご参加をお待ちしております。

(JRRN 事務局・和田彰)

第 16 回「小さな自然再生」現地研修会 in 京都府宮津市・大手川

- ◆開催日： 2022 年 12 月 11 日（日）
- ◆場所： 京都府宮津市・大手川
- ◆共催： 京都府立宮津天橋高等学校フィールド探究部

2004 年大洪水の後に災害復旧として住民対話により整備された親水空間を、自然と親しむ地域の交流拠点とするために「小さな自然再生」で見出せることを見出し試行します。

また、上流部にある親水空間を視察しながら、今後取り組みそうな「小さな自然再生」のアイデアを参加者で意見交換します。



第 17 回「小さな自然再生」現地研修会 in 茨城県・霞ヶ浦

- ◆日時： 2023 年 1 月 14 日（土）
- ◆場所： 茨城県美浦村・霞ヶ浦
- ◆共催： NPO 法人水辺基盤協会
- ◆協力： 国土交通省関東地方整備局霞ヶ浦河川事務所

水質浄化施設として整備された小さな水路と霞ヶ浦本湖の連続性を回復し、魚類など生物の生育・生息場としての価値を高め、またこの水路を地域の環境学習の場として活かしていくことを目的に、半日でできる手づくり魚道を制作し、その機能や生物モニタリング手法について学びます。



JRRN 事務局からのお知らせ (2) JRRN Activity Report

小さな自然再生普及プロジェクト-「第 15 回現地研修会@徳島県 神山町 鮎喰川」開催報告

2022 年 9 月 10 日 (土) から 11 日 (日) にかけて、第 15 回「小さな自然再生」現地研修会を徳島県神山町の吉野川水系鮎喰川にて開催しました。今回は、直前の降雨に伴う出水により、2 日間の研修のうちの 1 日目午前の現地研修が中止となりましたが、その後は鮎喰川の激的な出水・濁りのおさまりにより、奇跡的に研修を開催することができました！

徳島県 神山町と言えば地方創生の成功例として、県外からの若者の移住者が後を絶たない場所です。今回のプロジェクトの発端は、そうした地域振興の仕掛け人が集まる「一般社団法人 神山つなぐ公社」が、神山町を縦断する鮎喰川に着目し「鮎喰川を通じた広い世代の居住者を“つなぐ”きっかけづくりとして、川でできることを考える場づくりをしたい！」と発案され、今回の開催につながりました。主な参加は地域内外の小さな自然再生に関心のある方々約 40 名が参加されました。プログラムは以下の通りです。

第 15 回「小さな自然再生」現地研修会 【プログラム】

9 月 10 日 (土) 17:00 - 20:00

※悪天候のため中止 (13:00-15:30) <現地研修> 神山の先達と川遊びを体験する@鮎喰川・神領地区

<座学研修> 「流域治水」と「小さな自然再生」

- ・開会挨拶： 後藤正和 神山町長
- ・講演： 流域治水と小さな自然再生 (瀧健太郎：滋賀県立大学環境科学部 准教授)
- ・意見交換： 小さな自然再生の具体事例を学びながら神山町でできることを考える

9 月 11 日 (日) 9:00 - 15:00

<現地研修> 小さな自然再生の実践 @鮎喰川・広野地区／下分地区／神領地区

- ・川の耕耘、川底磨き、石積み、外来種駆除により、多様な流れと魚の棲み処づくりを実践。
- (15:00) 閉会 現地解散

初日の昼過ぎに予定していた「神山の先達との川遊び体験」は降雨と増水により残念ながら中止となってしまいました。一方で、夕方から座学研修よりスタートした研修会では、地元パン屋さんからのベーグルチキンサンドの販売もあり、和やかな雰囲気の中で行われました。開会挨拶として後藤町長からは鮎喰川での幼少期の原体験を交えた川の恵みと暮らしなどについてのお話をいただきました。そして基調講演では、滋賀県立大学准教授 瀧先生からの「流域治水」の考え方や、川を通じて皆ができることなどについて、画像や動画を交えた発表をいただき

ました。



9 月 10 日 座学研修の様子

翌日の現地研修では、午前中に広野小学校前の広野地区、宿泊施設「WEEK 神山」の前の下分地区、午後から神山温泉前の神領地区で行いました。参加者がタモ網を持ち川に入っている生物観察や人工的な攪乱による河川環境の改善法について、滋賀県立大学 瀧先生や、兵庫県立人と自然の博物館 三橋先生の解説等を交えて学びながら、ここでできることはなんだろう？といった意見交換を行いました。



9 月 11 日 神領地区でのごろ引き漁の様子

特に神領地区では、前日に実施できなかった「先達との川遊び体験」での「ごろ引き漁」を再現でき、一度に多くのヨシノボリが獲れる様子に参加者一同興味深々でした。

終了後に参加者から寄せられたアンケートでは「川との関わり方のきっかけづくりとなるよい機会でした」「もっと継続したい」等の意見が寄せられ、よい取り組みになったと感じました。



9 月 11 日 神領地区で集合写真

(JRRN 事務局・白尾豪宏)



手賀沼花火大会



あの日のあの川 リレー日記 ～第 64 話～



あの日のあの川
リレー Diary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？ 幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第 64 話主人公 福田皓気

(筑波大学大学院 システム情報学研究科 構造エネルギー工学専攻 白川 (直) 研究室『川と人』ゼミ)

(□川ガール・■川系男子)

(出身地を流れる川：千葉県 手賀沼 (利根川))

「童心とノスタルジー」

いつのこと？： 学生時代

どこの川？： 千葉県手賀沼・利根川

物心がついてから現在まで、数多とは言えないまでも河川・湖沼に関連した思い出が幾つか脳裏をよぎります。今回はそんな思い出の中から、地元の川・沼についてふと思い出したことをとりとめもなく綴ろうと思います。

通っていた小学校から少し歩くと、小高い土手に辿り着きます。土手沿いには道路が舗装されており、道路沿いを歩いていると、犬の散歩をしている老夫婦やロードバイクでひた走る青年とたびたびすれ違います。土手の向こう側には利根川が流れており見渡す限り田圃が広がっています。川と田圃を挟んで反対側はもう茨城県で、利根川は私の地元の千葉県と茨城県との県境の役割を果たしています。

手つなぎ遠足という風習が全国的なものなのか、私が通っていた小学校特有のものなのかはわかりませんが、この土手沿いは手つなぎ遠足のルートでした。年上のお兄さんに手を引かれながら、土手の向こうにある陸上自衛隊訓練場のカッコよさに心を惹かれ、自分達で作った段ボール製のそりで土手滑りをし、川を眺めながらお弁当を食べる。もう十数年前の出来事と考えるところはかたなく不思議で、それでいて心が締め付けられるようななんとも言えない心情にさせられます。今の私が車を運転して 5 分でたどり着ける、自転車を漕いで 10 数分でたどり着けるところを、当時の“ボク”は 1 時間ほどかけて歩かなければなりません。今の私が眺めて 10 分ほどで飽きてしまうような光景を、当時の“ボク”は馬鹿みたいに口をポケッと開きながらただひたすらと眺めていることが出来ました。幼い“ボク”が汗水たらして辿り着いた先によりよく見ることが出来た、目に映る自然の風景は、まだまっさらな“ボク”のキャンパスに彩りを与えてくれました。今見ても「夕日がきれいだな」・「川や田んぼの色彩が鮮やかだな」という感想は持ちますが、当時のように時間を忘れるほどの感動を得ることが出来ないことを少し寂しくも感じます。それと同時に、地元で河川や自然が溢れていたことは魅力的なことだったのだと実感しています。夏の午後の入道雲や、日の入りが

早くなる秋の夕暮れにノスタルジーを感じるように、私は地元の土手に郷愁を覚えますが、皆さんにも似たような記憶はあるでしょうか。是非一度想いを馳せてみてください。

さて、もう一つ記憶に強く残っているのが利根川水系の手賀沼です。手賀沼といえば一時期日本一汚い水質という不名誉なテーマで話題になっていました。現在水質は改善されつつありますが、外来種の増加という日本の様々な場所で発生している問題を抱えています。また、皆さんにとっても興味深そうな話としては、ディズニーランドの誘致場所の候補になったことがあるということでしょうか。現在舞浜にあるディズニーランドですが、実は手賀沼を埋め立てて誘致するという話もあったとかなかったとか…もしかしたら、手賀沼ディズニーランドが出来ていたかもしれない考えると面白いですね。

余談はさておき、手賀沼で思い出す私の思い出は、芋パイと河童・それに花火大会です。まず、芋パイというのは単純に手賀沼沿いのお店で売っていたサツマイモパイのことです。偶に手賀沼の方に車で向かうことがあると、親にねだって毎回購入してもらっていました。程々に甘くて美味しかったのですが、幼かった私が店名を覚えていたなんて事は当然のごとくなく、もう 10 年以上味わえていません。知っている方がいらっしゃれば是非情報を頂きたいくらいにもう一度味わいたい味です。河童というのは、手賀沼にまつわる伝説で、私の記憶の限りでは手賀沼には河童の像が数カ所設置されていたと思います。遠足の際に船の上からいくつか見かけた記憶があります。

最後の花火大会は、手賀沼で毎年のように行われていた恒例行事です。ここ数年はコロナで開かれていませんし、資金難で何度か開かれなかったことがあったとは思いますが、幸運なことに私は 2 回現地で見る事が出来ています。手賀沼の花火大会に赴いたのは中学生のときと高校生のときの 2 回なのですが、大きく分類すると前者は悪い思い出・後者は良い思い出です。手賀沼の花火大会は、それはもう大盛況でして、電車で行こうとするとなかなか駅から出られないほどの人が集まります。毎回開催されるのは夏休み期間ですので、ご想像の通りただでさえ蒸し暑い中に行われます。それに加えて駅で人の熱気に包まれながら人が多すぎて動けないわけですから、余程我慢強い人で無ければストレスを感じるはずで。少し言い訳をさせていただくと当時の私たちは中学生でした。ということで、当然のごとく不機嫌になりケンカになってしまったというわけです。せっかく良い思い出になるはずが、ケンカで終わってしまった苦い思い出です。一方で 2 回目に赴いた高校生の時は中学生の時よりは大人になっていたのでケンカも無く過ごすことができました。人は成長するものですね！

ここまで、私の河川や湖沼に関する記憶を掘り起こしてみましたが、川の紹介では無く自分自身の経験を皆さんに共有する形になりました。持論になりますが、人にとって重要なのはその物がどのように自身に関わってくるかだと思います。ただ BOD の数値がいくつであるとか、流域面積がどれだけであるとか、情報としての川について知ってもそれほど興味は湧かないのかなと思います。もちろん数値や情報だけで興味を抱ける人は素晴らしいと思いますが、そうではない方は是非ご自身の経験と紐付けて物事を捉えてみてください。川も自然も人の営みとともに存在するものですし、少なからず関わった経験があるはずで。「夏に川遊びをして冷たかった」でも、「近所の川が汚くて不潔だった」でも何でも良いと思います。そのようなご自身の体験から「なぜこの川は川遊びに適しているのか」、「この川は見るからに汚いけど水質はどの程度なのか」などという疑問が発生して情報に価値が生まれてくるのだと思います。釈迦に説法かもしれませんが、是非皆さんも川に関する身の回りの体験に目を向けてみてください。もしかしたら、川の魅力にとりつかれてしまうかもしれませんよ！

(次は坂井友亮さんにバトンを託します)

「リバフロサポートセンター」からのお知らせ(1) RiverFront Support Center

※「リバフロサポートセンター」は、公益財団法人リバーフロント研究所が強みとするテーマの情報、技術、研究成果、また川づくりの楽しさややりがい等を社会に発信し、水辺とまちのパートナーとして各地域の担い手を支援します。JRRN はリバフロサポートセンターと二人三脚で川づくり・まちづくり・流域づくりの推進に取り組んでおります。

「大河川における多自然川づくり～Q&A 形式で理解を深める～」 第7回目のウェブセミナーを開催しました！ 次回は11月下旬頃、開催予定です！

「多自然川づくりサポート」事務局（担当：金子祐）

■第7回 大河川における多自然川づくりウェブセミナー



「第7回 大河川における多自然川づくりウェブセミナー」を令和4年9月29日（木）に開催しました。

第7回目は、「Q2-1 治水事業において多自然川づくりで留意すべきポイントを教えて下さい」に関して、主に「樹木管理」に関連して、河川環境に配慮した事業のポイントや河道管理のあり方について、「樹木管理における多自然川づくりの実践例」と題して、いであ株式会社の川口様より、「多自然川づくりにおける河道の評価」と題して、日本工営株式会社の今井様よりご紹介頂きました。

参加申込者は、およそ行政関係者が4割、コンサルタント関係者が5割で全体の約9割を占めており、合計で約540名の方々に参加申込いただきました。参加者の皆様ありがとうございました。

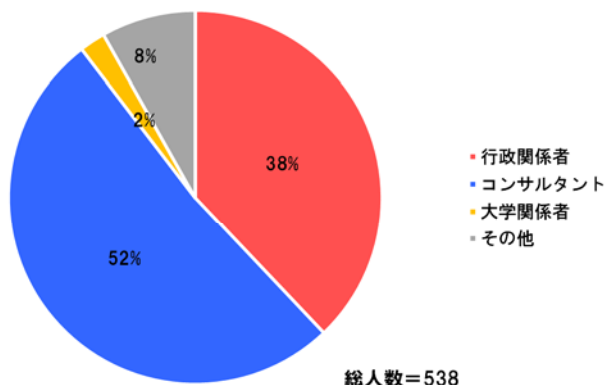


図 参加申込者の職種分類

＜第7回 ウェブセミナー開催概要＞

- 開催日時：令和4年9月29日 16:00～17:00
- 開催形式：ZOOM ウェビナー
(事前申込制、参加費無料)
- タイトル：「治水で環境も良くしちゃえ！
その2（樹木管理 等）」
～Q2-1 治水事業において、
多自然川づくりで留意すべきポイント～
- プログラム：
 - ① 樹木管理における多自然川づくりの実践例
講演者：いであ株式会社 生態解析部
主査研究員 川口究
 - ② 多自然川づくりにおける河道の評価
講演者：日本工営株式会社 仙台支店
流域水管理部 部長 今井素生
 - ③ 意見交換
- CPD：1.0単位（土木学会認定）

■次回開催予定、過去の講演動画の紹介

次回は11月下旬開催予定で調整中です。

また、過去の講演動画はリバーフロント研究所 HP にて公開中です。

次の開催案内、過去の講演動画等の詳細は以下のURLをご覧ください。

<http://www.rfc.or.jp/daikasen.html>

■大河川における多自然川づくり～Q&A 形式で理解を深める

本書では、大河川における多自然川づくりを実践するため、現場で直面する課題を Question とし、これに Answer とし、答える形式で、これまで日本が蓄積してきた知見が分かり易く紹介されています。

※本 Q&A のダウンロードはこちらから

https://www.mlit.go.jp/river/shishin_guideline/kankyo/tashizen/qa.html

6

JRRN 会員募集中 JRRN membership

■ JRRN の登録資格（団体・個人）

JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

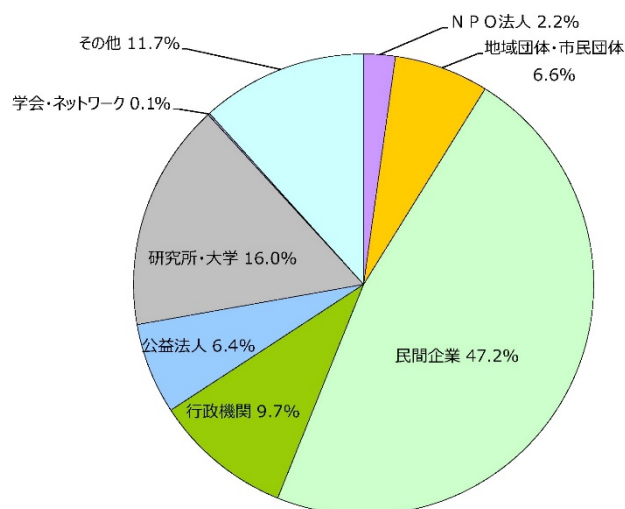
会員登録をされた方々へ様々な「会員特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週 1 回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2022 年 9 月 30 日時点の個人会員の所属構成

(個人会員数：832 名、団体会員数：65 団体)

※8-9 月の新規入会数： 個人会員 1, 団体会員 0

JRRN 会員特典一覧表（団体会員・個人会員）

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員 (一般)
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局



〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号 NMF 茅場町ビル 7 階 (公財) リバーフロント研究所 内

Tel:03-6228-3865 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net

URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>